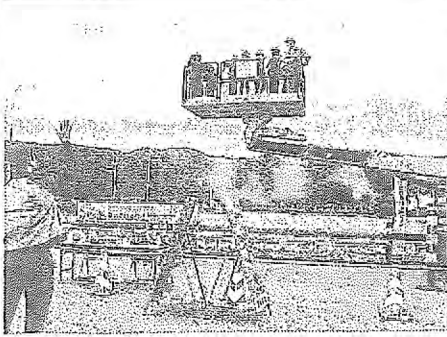


子どもたちが土木の魅力体験

大給組（兵庫県姫路市、大給文子社長）は14日、兵庫県赤穂市の「相生有年道路有年原東地区擁壁工事」の現場で、地元の子どもたちを対象に土木体験イベントを開いた。発注者の近畿



高所作業車の試乗体験

7年ぶり2回目のイベントは、同社の創業70周年に合わせ開催。子どもたちに土木の楽しさや役割を理解してもらおうと、現場を指揮する石田裕介工務部次長らが建機メーカーなどの協賛を得て企画した。

会場には高所作業車の試乗をはじめ、ミニバックホウのヨーヨーすくい、測量機器を用いた宝探しなど趣向を凝らしたコーナーを設置。VR（仮想現実）による安全確認や、ダンプカーの試乗、騒音計を用いた絶叫コ

大給組 赤穂市内の擁壁工事



パトロールカーに試乗

トラクションを体験。無料の屋台で昼食を楽しんだ。

石田次長は「親子で来場してもらうことで、土木に対する一般的なマイナスイメージも払拭（ふっしょく）される。子どもたちには土木は安全で魅力的だということを知ってもらい、将来の担い手を目指してこればうれしい」と語った。会場を視察した姫路河川国道事務所の三好智弘副所長は「土木に焦点を当てた現場イベントは貴重。直轄事業への地域住民の理解も深まる。大給組の地域貢献に大変感謝している」と話した。

現場は国道2号バイパス「相生有年道路」のJ R山陽本線アーダーパス部分の擁壁工事（施工延長約80延）。工期は2024年1月31日まで。